

請 願 書

2023 年 11 月 27 日

請願者住所

氏名 杉山生産組合

組合長 白井 倫啓

紹介議員

山田 辰也

カ-クラブ 陽子

学校給食への有機・無農薬・無化学肥料米の導入を求めます請願

【請 願 趣 旨】

市内に於いて、生産組合が解散してしまった地域も多数存在する状況です。高齢化、後継者不足で、農業が維持・継続が困難な状況であることは明らかです。杉山生産組合でも、数年前には解散の議論がされましたが、何とか生産組合を維持しているという状況です。

生産組合が解散となれば、農業者の関係がさらに薄くなり、農地を守ることがさらに困難になることが容易に推測されます。生産組合を継続し、杉山農地を安定的に維持管理していくためには、経済的に成り立つ農業を実現させる必要があります。そのため、今年度当初から、高付加価値の米作りの議論を進めてきました。現時点では、高付加価値=無農薬・無化学肥料米（有機米）と考え、学校給食での活用を学校給食課、農業課とも相談をしてきました。無農薬・無化学肥料米（有機米）生産拡大のために、学校給食での活用=無農薬・無化学肥料米（有機米）の公共調達実現を請願するものです。

請 願 書

市内に於いて、生産組合が解散してしまった地域も多数存在する状況です。高齢化、後継者不足で、農業が維持・継続が困難な状況であることは明らかです。杉山生産組合でも、数年前には解散の議論がされましたが、何とか生産組合を維持しているという状況です。

生産組合が解散となれば、農業者の関係がさらに薄くなり、農地を守ることがさらに困難になることが容易に推測されます。生産組合を継続し、杉山農地を安定的に維持管理していくためには、経済的に成り立つ農業を実現させる必要があります。そのため、今年度当初から、高付加価値の米作りの議論を進めてきました。現時点では、高付加価値=無農薬・無化学肥料米（有機米）と考え、学校給食での活用を学校給食課、農業課とも相談してきました。

学校給食課では、今年度中に食教育方針を策定する予定となっており、全国各地で広がっている有機給食の流れも考慮されるものと考えています。千葉県いすみ市では、有機米 100%の学校給食をわずか 4 年で実現させ、全国から視察が殺到しています。いすみ市の成功事例は、環境保全という大きな視点から、農業のあり方、学校給食のあり方に対する将来展望を示す画期的な取り組みになったと思います。

いすみ市担当課の話では、学校給食という食材の公共調達をベースに、農業の可能性を開くことができるということです。有機米づくりには、生産量の減少、品質の低下などのリスクが予想されるため、農業者にとって取り組みづらい栽培と言えます。しかし、公共調達の方向が明示されていれば、いすみ市の取り組みの様に、高付加価値に見合った金額の保障もあり、売り先も確保されることとなります。

有機農業は、世界的にも拡大の方向にあり、日本においても 2050 年までに有機圃場面積を 25%に拡大させるという野心的な目標を明らかにしています。目標達成のために、様々な支援も具体化されてきていますが、簡単に有機農業を実践する農家を増やせるものではありません。

しかし、有機農業の流れは確実に進みます。その流れにいち早く乗ることが、新城農業が先行者利益を得ることにもつながります。公共調達による、有機農産物拡大により、有機農業技術の蓄積、併せて新城ブランド構築の取組を進めることで、市内全域に有機農業の可能性を広げることにつながります。その可能性に杉山生産組合の存続をかけて挑戦したいと考えています。引いては、新城農業の継続性の確立につながられるものと考え、学校給食での活用=無農薬・無化学肥料米（有機米）の公共調達実現を請願するものです。